



力強い上段横蹴りを放つ初鹿さん

輝いています

空手全国大会 5年生男子中量級優勝

ひと

はっしか まさのり
初鹿 仁紀 さん

自慢の蹴り技で全国優勝

直

接相手に打撃を加えるフルコンタクト空手。

世界の競技人口が2000万人いるといわれているこの競技の全国大会の一つ「カラテドリームフェスティバル」が先月11日に大阪で開催され、小学5年生男子中量級・組手の部で塚越小学校の初鹿仁紀さん（11歳・塚越7丁目）がみごと優勝に輝きました。初鹿さんは6歳のとき、友だちが持つ色帯を見て自分も欲しいと都内の有名な道場に入門。しかし、練習を重ねても、突きが苦手でなかなか上達しませんでした。試合に勝てず悩むなか、両親のアドバイスで、持ちまへの柔軟さを生かした蹴り技を中心に戦う

スタイルになると、小さな大会で勝てるように。「もつと大きいトロフィーが欲しい」と、稽古が休みの日も自宅でミット打ちをするほか、水泳などの習い事で体幹を鍛えてきました。そして、パワーとスピードを兼ね備えた鋭い蹴りを身につけていった初鹿さんは、めきめきと頭角を現し、前回の全国大会で3位入賞するほどまでに成長しました。今回の全国大会では初戦を1本勝ちで決めると、勢いそのまま勝ち進み準決勝で同じ道場のライバルと対戦。お互いよく知る相手のため、技が決まらず延長戦にもつれこみましたが、最後まで気持ち切りさず攻め続け、判定勝ちで勝利をもぎ取りました。最大の山場を越え、迎えた決勝では、得意の蹴り技、「外回し蹴り」と「上段横蹴り」で技ありを獲得し、1本勝ち。全国出場者の頂点に立ちました。「自分の蹴り技が全国で通じたことがいちばんうれしかったです」と、まだあどけない笑顔を見せる初鹿さん。夢はいつか世界の舞台で戦うこと。空手界にその名をとどろかせるため、これからも努力と挑戦の日々は続きます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.68—



暁翠筆「毘沙門天寅狩之図」明治22年(1889) 武川卯之吉板 大判錦絵三枚続

暁翠が描いた、明治23年（1890）寅年の正月用錦絵です。明治17年（1884）から毎年出版されていた正月用の福神錦絵シリーズのひとつで、明治22年（1889）に暁斎が亡くなったため、本図から娘の暁翠が

引き継ぎました。虎狩りは加藤清正など武勇伝の代名詞でしたから、七福神の中では武神でもある毘沙門天が適任でしょう。勇ましい毘沙門天からは父である暁斎譲りの迫力が、子を守るうとする母虎からは暁翠らしさを感じられます。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 1月5日(水)～2月25日(金)

「壬寅の吉年に一新春吉祥画―」展 同時開催
「暁斎が描いた能狂言版画展 ―『狂言つくし』を中心に―」

開館＝午前10時～午後4時 ところ＝南町4-36-4
休館＝火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始
入館料＝一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円
65歳以上500円
※65歳以上の方は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳細＝同館 ☎441-9780



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください